

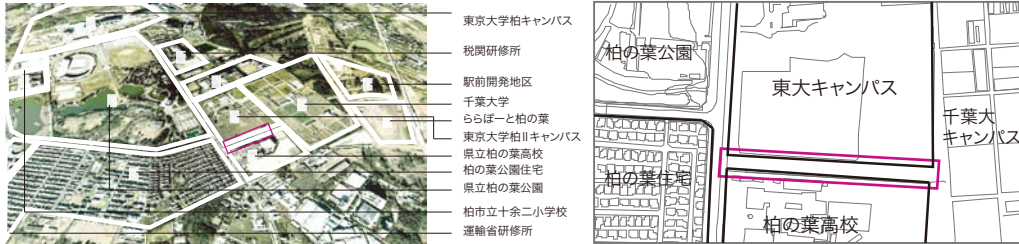
みちのプロジェクト

～ 柏の葉の未来を考える～

最終目標 vision

柏の葉キャンパスタウンの核となる交流の場を目標として、まちの多くの人と共にまちづくり活動を行っています

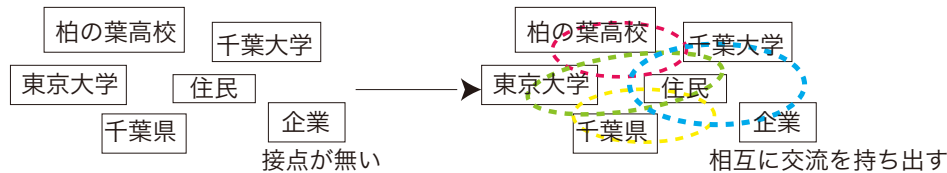
敷地 site



敷地は千葉県柏市柏の葉地域にある、千葉大学柏キャンパス構内通路「みち」である。「柏の葉キャンパスタウン構想」を持つこの地域では、産官学連携のまちづくりが進められている。2005年には都心と郊外を結ぶ鉄道が開通し、多くの人の流れが見込まれるようになった。それに加えて東京大学・千葉大学の両方がキャンパスを構え、それぞれが地域に開かれた大学を構想する、今正に変わろうとしている地域である。しかしその一方で、大学、高校などの教育機関と住民の接点がほとんど無いことが問題として挙げられる。対象敷地である「みち」は、東大、千葉大、高校の敷地境界に位置し、また駅へのアクセス道としての利用もされていることから、「キャンパスタウン」の核となる交流空間としての可能性を秘めている。緑が多く、環境の良い広場の要素を持ちながら、現状は通路としての利用に留まっている。通行可能時間も平日の昼間だけに限定されている。

コンセプト concept

この町に存在する人達の接点を創り、町に様々な交流を生み出す。



みちを中心に様々な主体の活動が溢れ出す。

image perspective

ワークショップ workshop

2007.6

workshop 1 みんなでかんがえる -みちへの意識向上-



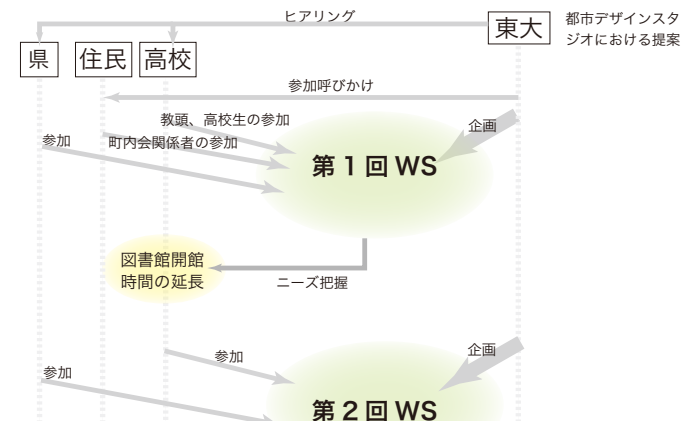
柏の葉地域や敷地に対する意識啓発を目的として、敷地利用者である高校の生徒、教頭、住民を迎え、①敷地や地域に対するイメージ、ニーズの共有、②敷地の景観評価、敷地イメージ・ニーズに関するアンケートを行った。各主体の参加は、直接学生が赴いて代表者が趣旨を説明し、代表者が数名に呼びかける形で実現した。

workshop 2 みんなでつくる みんなでつかう -交流促進-



ダイアグラム

diagram



東大 都市デザインスタジオにおける提案

2007.7



1回目ワークショップでニーズとして多く挙がった「休憩場所」を実現するため、現地使用を意図した家具製作を行い、参加者間の交流を図った。前回参加者に加え、柏の葉地域に桜並木の設置を目的とする八重桜並木設置協議会の会員も迎えた。グループに分かれ家具を製作した後、家具の使用例を発表した。

workshop 3 みんなでさがす みちの魅力 -デザインの介入-

2007.9



現地で敷地の活用提案を行うことで、敷地への意識向上を図った。今回は敷地の計画に携わる千葉大教員も参加した。柏の葉における空地の有効利用を目的とする「柏の葉ピクニッククラブ」と横浜国立大学講師との共催である。まず個人で敷地を観察し場所毎の特徴を書き留めた後、グループで次回イベントで使用するピクニック用ラグと照明の配置を考えた。この回は、以後の敷地開門時間延長に繋がる布石となった。

柏の葉ナイトピクニック -参加者からの持込企画-

2007.10



前回の配置提案を実現する目的で、KPCと共催でピクニック企画を行った。今回も、高校、住民、千葉大教員が参加した他、通りがかりの住民の参加も多く見られた。成果として、①高校生から企画が持ちかけられ、WSへの主体的参加の実現、②前回ワークショップ参加者は、自分達が提案した会場デザインの実現を実感出来た⇒敷地への意識向上の促進、が挙げられる。

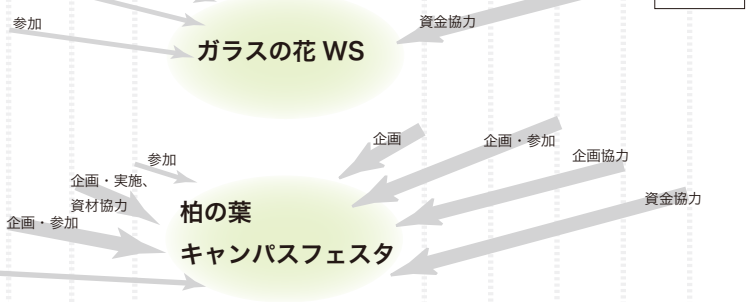
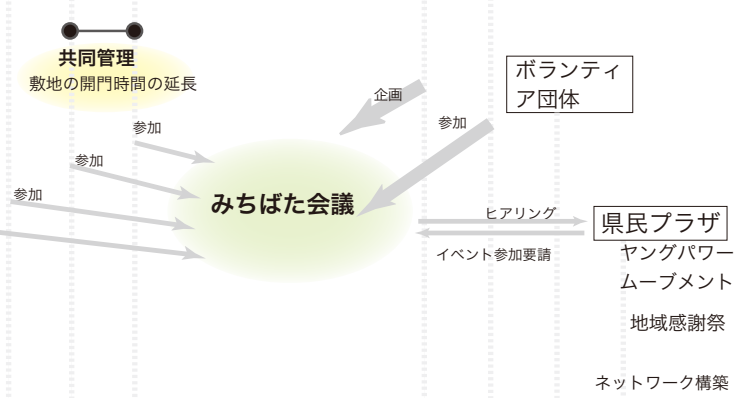
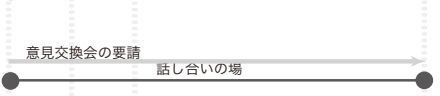
柏の葉キャンパスフェスタ -みちの広場の活用の実践-

2008.4



企画段階から、柏の葉公園住宅住民、柏の葉高校の先生や生徒、八重桜並木設置協議会（千葉県庁職員、美しい地域づくりの会（花づくりボランティア）、東京大学院生、千葉大学院生、東京理科大学院生が集まって話し合い、イベントを企画。企画会議は「みちばた会議」と称し、みんなで意見を出し合いながらイベントの内容を詰めて行った。そうして出来上がった「柏の葉キャンパスフェスタ」は、コンテンツを0から生み出すのではなく、既にこの町に存在する様々な活動をピックアップし、多くのコラボレーションを促進することにより創り出された。具体的には、地元陶芸サークルの作品を使用したカフェ、高校の茶道部統括によるお茶処、地元や大学のバンドによるライブや、韓国人留学生によるダイニング企画、花を植える企画などを行い、多くの人を集める事が出来た。また、事前企画として、アーティストを招き、地元企業の全面的な協力の下、廃ガラスを利用した手作り街灯「ガラスの花」の制作ワークショップも開催し、みちへの関心を高めることができた。このイベントによって、多くの人がこの町の様々な魅力を発見し、まだ知らなかった多くの人や活動と出会うきっかけを得る事が出来た。

学校祭での活動紹介展示



イベント event